

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年3月19日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新プロジェクト
承認番号	KC1121
排出削減事業者名	東洋化学株式会社
排出削減共同実施事業者名	ESカーボンクレジット合同会社 (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	東洋化学株式会社 本社工場 (住所：三重県三重郡川越町高松820)
事業の概要	A 重油ボイラ3基を都市ガスボイラ3基へ更新する。高効率のボイラへ更新し、単位発熱量あたりの CO2 排出量が少ない都市ガスへ燃料転換することで、CO2 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2011年度： 220tCO2 2012年度： 883tCO2 2013年度：1,098tCO2 2014年度：1,157tCO2 2015~2018年度：1,077tCO2 2019年度： 823tCO2 (事業実施期間合計 8,489 tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2012年1月5日 終了予定日 2020年1月4日
排出削減方法論	方法論番号001: ボイラーの更新

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日 ～ 2017年12月31日（第3回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	1867tCO ₂ (2013年4月1日～2017年12月31日)
-------	---

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 本実績報告期間における都市ガス使用実績の確認と、現地訪問により、対象期間中の設備稼働を確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 承認事業計画に従って、都市ガス使用実績をもとに算定・集計されていることを確認した。 2) 活動量の正確性 都市ガス使用量の帳票との突合せおよび現地訪問により、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の確認 J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.2.10の確認により、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。また、ボイラー効率についても、ボイラーごとのガス使用量とボイラー効

	<p>率のカタログ値から適切に計算されていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>排出削減量の算定結果をボイラー使用実績との突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に誤りはないことを確認した。□</p>
算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	<p>今回の実績確認対象期間は 2013年4月1日から 2017年12月31日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2020年1月4日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

特に無し

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算 -156.4kL、熱量換算 -6062.4GJであることを確認した。

なお、2015年度以降の削減量が前回認証（2012年4月1日～2013年3月31日）と比較して大幅に削減量が減少しているのは、2013～2017年度にかけて複数の月でボイラー効率が更新前よりも悪化しているためである。悪化している月については、すべて削減量の算定において計算に使用していないため、削減量が大幅に減っている。

以上